

技術部会ワークショップ技WS-1 高気圧酸素治療における各施設での 教育に関する調査～アンケート報告～

管田 壘 小熊美行 小森恵子

日本高気圧環境・潜水医学会 技術部会
医療機器安全管理及び事故対策調査委員会

【目的】学会、技術部会、安全協会協働で各施設にご協力頂き、高気圧酸素治療に従事するスタッフの教育体制についてアンケート調査を実施し、現状の把握と今後の課題について検討する。

【対象】高気圧酸素治療安全協会 安全協会ニュース
2011 vol.20 No.2に記載されているHBO装置所有施設 627施設

【方法】案内書と下記内容のアンケート用紙を郵送し、郵送、もしくはWebでの回答を依頼。

【アンケートの質問内容】

- HBO業務従事スタッフについて (人数や勤務状況)
- 教育方法について (知識・技術)
- 緊急時対応の教育について (知識・技術)
- 業務研修終了の目安について
- 業務習得後の再確認について (知識・技術)
- その他 (インシデント件数等)

【結果】回収率 40% (248施設/627施設)。うち撤去済 18施設、休止中 8施設、不達 4施設のため、有効回答数: 222施設/627施設 (35%)。郵送 99件 (45%)、Web : 123件 (55%)。

職種別のHBO業務習得スタッフ数は、医師が1～2人、看護師は1名～3名が多く、臨床工学技士は1～10名以上まで万遍なく在籍していた。医師や看護師不在の施設が多く、臨床工学技士のみでの治療実施が192施設だった。

HBO認定資格者の施設在籍数は、不在の施設が一番多く、次に1名在籍、2名在籍と3名在籍は同等だった (131施設・57施設・24施設・22施設)。

HBO就業スタッフの掛け持ち部署数は、HBO+1部署の掛け持ちが一番多く、次にHBO+2部署とHBO+4部署が同等だった (114施設・59施設・56施設)。教育体制はマンツーマンでの教育が多く、チェックリスト等を使用した複数人での教育は少なかった (148

施設・37施設)。

教育プログラムの内容は、全施設で通常業務を習得しており、患者急変時の対応や、HBO装置トラブル時の対応は半数以上の施設で教育しているが、ガス供給システムトラブルにおいては1/3程度だった (151施設・126施設・79施設)。通常業務の知識習得方法は、指導者からの教育が一番多かった (188件)。通常業務の実技習得方法は、実際の治療を行う方法が一番多く (211件)、シミュレーショントレーニング (以下、ST) での教育は54施設あった。

緊急時の知識教育は、指導者からの教育が一番多く (191件)、STでの教育は50施設あった。緊急時の実技教育についても、同様の結果となり (188件)、STでの教育は55施設あった。業務習得の目安は、症例数や治療件数で決定する施設が多く、治療件数の目安は、15～20回が最多で、次に20～50回、5～10回と50～100回が同数だった (15施設・13施設・12施設・12施設)。

業務習得後、通常業務の知識と実技の再確認、緊急時対応の知識・技術の再確認については、研修最終段階のみで習得後は特にないと答えた施設が半数以上を占めた (139施設・138施設、127施設・127施設)。

昨年1年間のHBOに関するインシデント件数は、1件発生、2件発生順だった (27施設・15施設)。内容は、物品チェックミスが一番多く、次に患者要因、スタッフ要因と機器要因が同数だった (21件・12件・10件・10件)。

【まとめ】アンケートの結果を分析することで、各施設の教育体制にはバラツキがあり、標準化できていない現状が明らかになった。業務習得後の知識と技術の再確認については、ほとんどの施設で実施されていなかった。

【結果】今回、集計したアンケートの結果から、現状の把握と今後の課題を抽出した。今後、学会、技術部会、安全協会が主導となり、標準的な教育プログラムや物品チェックリスト等の作成が必要と思われる。